会報 No. 61 最終号
2015 年 1 月発行

2014 年度　学生数 298 名
（2015 年 1 月現在）

Philippines-Japan

サラマッポーありがとう

特集■第 33 回定例集会

■サラマッポ会の実 ― 卒業生たちは今

■あなたに会えてありがとう ― サラマッポ会のあゆみ

“サラマッポありがとう”の旅立ちのときを迎えて
―感謝のうちに最後の定例集会を終えて―

世話人代表矢吹貞人

何につけても“これが最後なのだ”とひとしお愛おしさを感じながら初春を迎えました。昨秋開催の定例集会も“最後のもの”となりました。それは 33 年間に及ぶサラマッポ会の活動の中で、私たちすべてが思いがけなくもそれぞれにいただいた身に余る大きな恵みに対する感謝の心に満たされた集会となりました。それらをすべての会員の皆様にお伝えいたしたく、“会報最終号”（第 62 号）をお届けいたします。

33 年もの長い年月、小さな私たちをお使いくださって、神様がそっと隠れて綴られた“サラマッポ会物語”の第一幕が下りようとする今、事務局を閉じるのを待たず、早くも第二幕は上がり始めているようです。“最後の定例集会”の中でもそれを感じることができました。一言、サラマッポ会の皆さんに感謝の心を伝えたくて、自ら進んで出席してくれた二人の卒業生たち。4 月初旬に行う予定の“最後のサラマッポ・ツアー”のときを逃さず、全世界に活躍の場を広げている卒業生たちに呼びかけて、サラマッポ会への感謝と“サラマッポありがとう”の心のバトンを引き継ごうとの夢を抱いて“同窓会”の準備を進めている卒業生たち。サラマッポ会に巡り合えたお蔭で、夢にまで見た勉学に励むことができ、社会で活躍できるようになった喜びをかみしめている卒業生たちの生き生きとした姿に接するとき、私たちが大切にしてきた“サラマッポありがとう”の心はしっかりと受け継がれていることに感動いたします。

学生たちだけではありません。学生たちと出会うことができ、心を広い世界に開かれる喜びをいただけた私たちの心にも神様はそっと種をお蒔きになって下さったのではないでしょうか。サラマッポ会の交わりの中に招かれたすべての人たちの心の中に蒔かれた小さな種がこれからさらにどんなに成長させていただけるのか、と考えると胸がわくわくいたします。

そうは申しましても、まるで、ひとり、広い世界に旅立とうとする我が子を送り出す時のような不安を感じないと言えば嘘になります。しかし、大いなる御手に委ねようと決心した以上、心からの信頼をもって旅立ちを祝いたいと思います。

4 月には“最後のサラマッポ・ツアー”を実施いたします。これまでで最多の申し込みをいただきました。そのツアー終了後、それらの報告に加えて、サラマッポ会の 33 年間の活動を締めくくるまとめのご報告を“サラマッポありがとう「さよなら号」”として皆様にお届けする予定にしております。そこには、広い世界に旅立つ“サラマッポありがとう”の未来の姿が垣間見えると想います。楽しみにお待ちください。

新しい年が皆様にとって恵みの年となりますようお祈りいたします。

第33回　定例集会　2014

2014年10月19日（日）
東京四谷ニコラバレ修道院9階ホール
参加者102名

プログラム

■開会あいさつ　矢吹貞人（東京事務局世話人代表）
■2014年度活動報告・会計報告 / 2015年度活動計画
■プレゼンテーション　「サラマッポ会の実」
～卒業生たちは今～　山本雅子（マニラ事務局代表）
■「こんにちは　みなさま」卒業生たちの話
マルー、クリスチャン　アリストテル
■プレゼンテーション　「あなたに会えてありがとう」
～サラマッポ会33年の歩み～　東京事務局
■ご意見・ご感想など
■閉会のあいさつ

プレゼンテーション「サラマッポ会の実」

～卒業生たちは今～　山本雅子（マニラ事務局世話人代表）

サラマッポ会の33年を振り返って私は思います。これは日本の善意の人々と、フィリピンの夢を叶えたい子どもたちとを繋げた、神さまの物語ではないかと。
神さまは、それぞれ必要なところに、必要な人を置かれました。スポンサーたちのニーズに対応するためには、東京のスタッフたちを。それがみんな素人のボランティアと見ると、その盾になるようにと矢吹代表を。フィリピンを統括するためには西本神父を。神父をアシストするマニラのスタッフたちを。さらに、神さまは、学生たちをきめ細かく指導監督するためには、地域のシスターたちや神父を選ばれました。こうして、日本人のスポンサーたちとフィリピンの学生たちがしっかり繋がって、33年間で約3000人が大学を卒業し、それぞれの夢を叶えることができました。
スポンサーと学生、そのきずなが果実を結んだー。これはまさに**"サラマッポ会の実"**だと思うのです。

まず、アルフレッド・グメラ（2008年卒）のライフストーリーを紹介しましょう

見捨てられた人々の牧者になりたい

アルフレッド・グメラ（PEP-1089 西村おさむ　澤田八重子）

僕は「いつか良い仕事に就いて家族のために家を建てたい、貧しい親戚たちを助けたい」と熱望していました。
サラマッポ会のスカラーになれたことは僕にとって何よりも大きな祝福だったと思います。
ハイスクール時のスポンサーは西村おさむさん、大学生の時のスポンサーは沢田八重子さんでした。卒業の賞状に貼られていた写真で澤田さんのお顔を知ることができ、それはいまでも僕の宝物です。
大学卒業後、僕はエンジニアの国家試験を受ける余裕もなく、一家を貧困から引き上げるために、すぐに働き始め、暮らしは安定しましたが、次第に僕は心の中に何か足りないものを感じるようになりました。

僕は現在、西本神父が所属していたレデンプトール修道会の神学生です。希望を失い悩んでいる人の霊的な父になって励まし、見捨てられた人々の牧者になりたいと思ったのです。

スポンサーの皆さんは、僕たちフィリピンの学生への支援を通して、神の愛の運び手となってくださったのだと思います。心からの感謝を表するとともに、神の豊かな祝福を祈ります

次はベンジャミン(PEP-207)のお話です。

彼は、1995年に医学部を卒業して医師となり、結婚して娘が一人いますが、1999年に、市内のATMで現金を引き下ろした際に強盗に襲われ、脊髄を損傷し、首から下が不随になりました。しかし、そんな境遇にも負けず、ベンジャミンは脊髄損傷の患者たちを励ます国際的なシンポジウムにも積極的に参加したり、ボランティアで医療アドバイスをして、患者たちを励ましています。

『どんなに良いことにも終わりがあります。しかし、皆さんの素晴らしいお仕事は遺産としていつまでも残ります。私の人生は、皆さんからの支援によって大きく変わりました。まず、私に夢を持つことを気づかせてくれました。そしてそれが結局、私の家族に良き未来をもたらすことにつながっていくのです。私は娘に、**「たとえどんなに小さなことでも、そして誰にも知られなくても、人を助けなさい」**と言い聞かせています。

私と家族は、私のスポンサーである常盤平幼稚園のご父兄の皆さん、その子供たち、事務局スタッフたち、ファーザー西本、そしてサラマッポ会に関わるすべての方々に心からの感謝を捧げます。

いつまでもお元気で！神の祝福を祈ります。』

昨年の定例集会のとき、2011年から、レイテ島にあるフィリピン大学医学部で、将来地元に戻って僻地医療に従事するために勉強している学生たちの支援を始めたということをお話しましたが、覚えておられるでしょうか？

その卒業生Melly Jean Albario(FMM-505)からのメッセージです。

サラマッポ会からの卒業の賞状とプレゼントをシスターチタから受け取りました。ありがとうございました。私は何千人ものサラマッポ会の卒業生の一人になれたことを、とても誇りに思います。

私は今、ここレイテのビリ島で、正規の看護師として保健省の医療活動に携わっています。そして、私の故郷の村の、特に保健医療サービスを必要とする人々のところに行って、その助けができることを心から嬉しく思っています。私の担当は、８つのバランガイ（最小行政区）ですが、その内の５つは離れ小島で、私自身もその一つの島の出身なのです。

皆さん、ぜひここを訪問してください。私は喜んで私の家族全員を紹介しましょう。そして皆さんを観光名所にご案内しましょう。神様の祝福を、そして皆さんの健康を祈ります。

実は、レイテ島の学生たちが日本の看護学生たちの研修をアレンジして助けてくれました。

毎年８月、フィリピンへ研修のために来る久留米の聖マリア学院大学の看護課の学生たちは、今年、見学可能なプロジェクトが見つからず、がっかりしていましたが、シスターチタの呼びかけで、レイテ島のフィリピン大学医学部の看護科と助産科コースに学ぶサラマッポ会の学生たちが活躍し、正味２日間の有意義な滞在を可能にしました。

帰国した看護学生の一人からメールが届きました。

「私は、サラマッポ会の方々のおかげで、貴重な体験と、人と人との繋がりの大切さを知ることが出来ました。妊婦さんの問診の見学やレオポルド触診をさせてもらったこと、そして何より、分娩に立ち会えたことで、生命の誕生の素晴らしさを目で、肌で感じることができ、助産師になりたいという思いを強くさせられました。私達を受け入れ、このような貴重な体験を与えて下さった皆さんの心の広さを嬉しく感じると同時に、感謝の気持ちでいっぱいです。この体験を生かし、将来に向けてさらに学習を深め、頑張りたいと思います。ありがとうございました。」

マニラから、集会に一

こんにちは、私はマルーです

MICグループ、1991年卒業　（清水栄三、和子）

私はMICグループの最初のスカラーです。

スカラーに選ばれたことは、私の人生にとっての救いでした。父は犯罪に巻き込まれて死に、母に５人の子供が残されました、勉強をやめなければならない瀬戸際にいた時、スポンサーになってくださった清水栄三さん、和子さんは、まさに神さまが送ってくださった天使でした。おかげで、大学を卒業し、マスコミュニケーションの学位を得ることができました。

最初の勤めは製薬会社の宣伝部で、その後、ラジオ局に移り、アナウンサーになりました。結婚して、夫も息子も今、同じテレビ・ラジオで活躍しています。

最近になって、サラマッポ会を通して、奥様から美しい手紙が届き、清水さんが天国に行かれたことを知りました。涙が止まりませんでした。

今の人生の歩みの中で、私は清水さんの所まではまだ辿り着けていません。

私たちは、深い悲しみを持って、サラマッポ会が閉じようとしているニュースを受け取りました。会が閉じる前に、フィリピンじゅうのサラマッポ会の卒業生全員が同窓会をしたいと思っています。私たちは、貧しく向学心に燃えた子どもたちを助ける次のステップを、その時をもってスタートさせたいと思っています。

クリスチャンはカリフォルニアから

僕はサラマッポ会とスポンサーの皆さまに敬意と感謝を表わす、ただそれだけのために、今日家族８人と一緒にアメリカからやってきました。

僕は、上田正子さんのサポートを得て、マニラで理学療法の学位を取りました。

上田さんは、もう天国に行ってしまわれましたが、1994年には、マニラに来てくださいました。

卒業後、大学で指導していましたが、幸運にもより高い知識と技術が学べるアメリカの大学のスカラシップを得ることができました。

現在僕はカリフォルニアで３つの保険組織を運営しています。その一つは、貧しい人々に作業療法や言語療法を無料で提供するものです。

振り返ってみると、僕が人生という旅路の中の試練に打ち勝って成功できたのは、サラマッポ会が 20 年前に僕に教育のチャンスを与えてくれたおかげだと思います。

サラマッポ会は活動を終えますが、僕は出来る限り、サラマッポ会の伝統を受け継ぎ、他者へのサラマッポ会となれるよう努力したいと思います。

サラマッポ会の実

卒業生たちは今・・・

2014 年 10 月現在

マニラ事務局で収集した、卒業生たちの現在の職場での写真を披露したいと思います。担当のオデットは、昔の卒業生たちを発掘できないかと、フェイスブックを検索して連絡を試み、1980 年代 90 年代の卒業生たちまでも見つけました。
驚いたのは、卒業後 20 年以上も経っているのに、彼らは学生番号は忘れても、スポンサーのお名前はきちんとフルネームで覚えていることでした。
卒業生が、それぞれの職場で自信をもって働いている写真を、どうぞご覧ください。

卒業生名(学生番号)
専攻　卒業年
現況(職業)
＜スポンサー名　敬称略＞

Nic Cobacha (PEP-1205)
海上運輸学 2005 年卒
航海士
＜カトリック栃尾教会＞

Maria Fe Reyes (PEP-992)
コンピューター科学部 2005 年卒
スチュワーデス
＜国際ソロプチミストハ戸＞

Alvin Kindipan (B-080)
歯学部 2008 年卒
歯科医師
＜川原　朋子＞

Charmaine Tandoy (PEP-1160)
初等教育学部 2007 年卒
小学校教師
＜大田　のり子＞

Josielyne Abrogena (U-118)
政治学部 2013 年卒
ラジオ･レポーター（バギオ市）
＜恩田　祥子＞

Jenebeth Opao (Y-008)
経営管理学部 2011 年卒
会社会計スタッフ
＜櫛引　洋一･康子＞

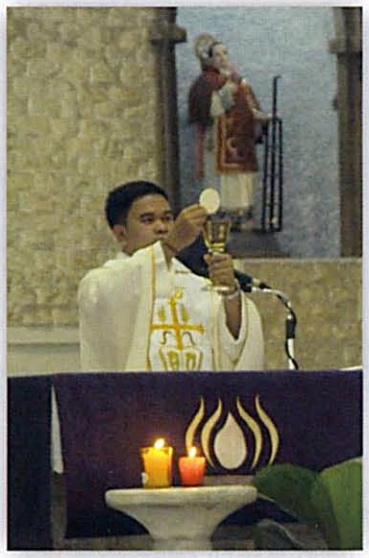
Cherrie May Gutierrez (PEP-732)
ホテルレストラン経営学 2001 年卒
自宅でベーカリーを経営
〈布村 健一〉

Rosalie Piñon (R-52)
高等教育学部 2007 年卒
高校教師(生徒指導担当)
＜千葉 恵保子＞

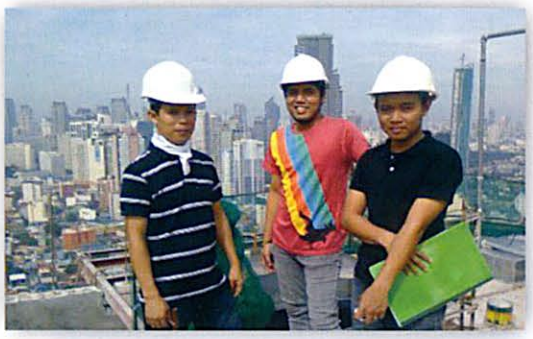
Charissa Juanir (D-128)
教育学部 2009 年卒
高校教師
＜根木 幸＞

Geraldine Domondon (PEP-733)
マスコミ学部 2000 年卒
オンラインでぬいぐるみ輸入販売
＜茨城ガールスカウト 15 団＞

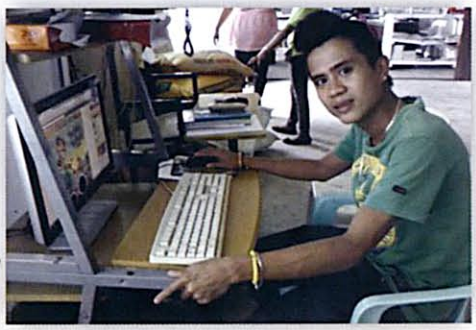
Joseph Longasa (L-072)
神学部 2009 年卒
レガスピ教区司祭
＜宇部教会 せみの会＞(哲学コース)
＜松本錦二ファンド＞(神学コース)



Ann Leah Villorente (PEP-1144)
経営管理学部 2010 年卒
会社管理部会計役員
＜萩原 秀雄・淳子＞



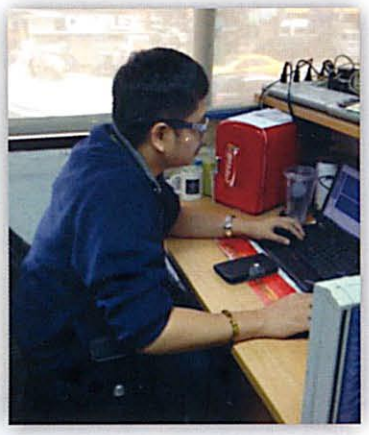
Paul Christian Espanol (PEP-1201)
土木工学部 2011 年卒
エンジニア
〈藤ヶ丘幼稚園 教職員〉



Stan Ford Tandoy (PEP-1209)
商業学部 2011 年卒
地方公務員
＜大田 のり子＞

Maria Teresa Reyes (PEP-1070)
医学部 2003 年卒
職業:医師
＜西村 哲夫＞

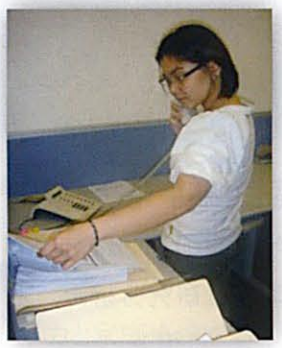
Ivy Gonzales 左 (D-120)
高等教育学部 2012 年卒
高校教師
<カトリック松戸教会 聖体礼拝の会>



Keeno Ramonchito Alea(PEP-1156)
電子通信工学部 2007 年卒
エンジニア
<関原 政治>

Rosalie Destura (L-059)
社会事業学部 2004 年卒
ソーシャル ワーカー
<荒井 智子>

May Sheil Owano (D-059)
教育学部 2004 年 10 月卒
高校教師
<菊地 正浩>



Karissa Damay (PEP-1185)
統計学部 2009 年卒
統計学士
<樫山 広士・文江>

Maria Mency Cañedo (CH-172)
教育学部 2014 年卒
幼稚園教諭
<小西 次郎>

Kim Lindsey Punzal (K-378)
銀行業・財政学部 2014 年卒
保険会社職員
<荒井 功>

Marjorie Joanne Tandog (PEP-1228)
ファッション技術学部 2012 年卒
衣類企業の技術サービス課 エンジニア
<川島 瑠璃>

Eljay Dacpano (U-120)
観光経営学部 2013年卒
ホテル・レストラン勤務
<森 正淑>(高校時)
<宮8グループ>(大学時)

Perla Vidal (PEP-435)
コンピューター科学部 2005年卒
銀行支店長
<馬場 幸子>

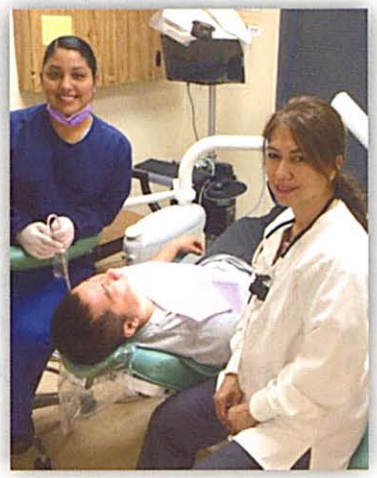
Allen Rillera (B-041)
科学工学部 1988年卒
石油会社研究分析士
<国分 康晴>

Aida Almazan (PEP-40)
会計学部 1986年卒
銀行支店長
<中村 鈴子>

MellyJean Albario(FMM-505)
看護学部 2013年卒
助産師/看護師
<大越 伊津子>

Elsa Mendoza (PEP-244)
商業観光学部 1989年卒
会社代表取締役
<山根 義久>

Rosario Cruz (PEP-206)
経営管理学部 1990年卒
銀行次長
<太田 敬彦>

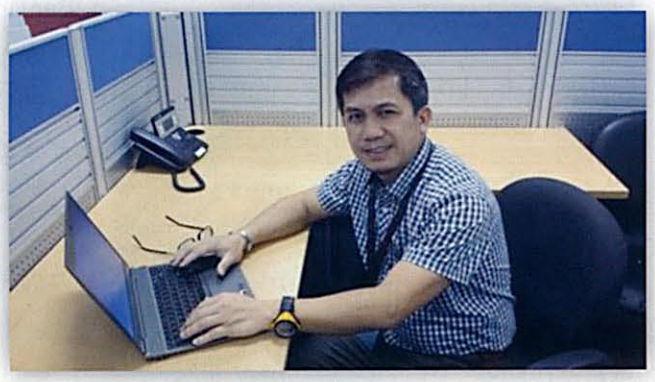


Emalyn Sanga (PEP-197)
歯学部 1989年卒
歯科医(在カリフォルニア)
<渡辺 昇>

Floribelle Alzate (Z-053)
化学部 1990 年卒
職業看護師(在サウジアラビア)
＜中田 照代＞

Jocelyn Solidum (PEP-185)
看護学部 1990 年卒
会社支社長
＜浜 嘉子＞

Hiyasmin Reyes (PEP-176)
数学部 1990 年卒
会社勤務(在カナダ)
＜田辺 鶴一＞



Edson Reyes (PH-028)
コンピューター工学部 1991 年卒
会社支社長
＜津嶋 のぶこ＞

Marou Pahati Sarne (MIC-005)
マスコミ学部 1991 年卒
ラジオ・アナウンサー
＜清水 栄三＞

Cynthia Jordan (PEP-180)
生物学部 1993 年卒
高校教師
＜小川 初美＞

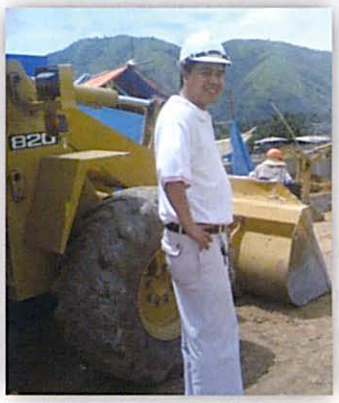
Anabel Estrella (PEP-661)
医学部 1991 年卒
医師
＜小野沢 晃＞

Pedro Barcenas (L-009)
管理経営学部 1991 年卒
NGO経理士
＜藤井 米子＞

Joseph Neilson Abrihan (PEP-443)
航空機整備工学部 1993 年卒
航空機整備エンジニア
＜三井 保親＞

Roel Rodolfo (PH-001)
飛行機整備工学部 1993 年卒
警察官
＜横井川 ノリ子＞

Luningning Borromeo (PEP-188)
生物学部 1994 年卒
会社勤務(編集部)
＜岡村 善博＞



Vernard Garcilla (S-001)
機械工学部 1994 年卒
エンジニア
＜森 みつよ＞(高校時)
＜高橋 ミサホ＞(大学時)

Benjamin Bernandino (PEP-207)
医学部 1994 年卒
医師(奉仕)
＜常盤平幼稚園 サラマッポの会＞

Leticia Batto (B-002)
初等教育学部 1995 年卒
小学校教師
＜田谷 登＞

Jocelyn Icaro (PEP-483)
工業工学部 1997 年卒
生産部長
＜笛木 美子＞

Evangeline Constantino (PEP-567)
コンピューター工学部 1996 年卒
マニラ市役所・市長事務所勤務
＜竹氏 廣＞(高校時)
＜今井 啓介＞(大学時)

John Capada (PEP-720)
会計学部 1996 年卒
会社会計士
＜板井 一竜・玲子＞

Armalyn Comia (PEP-482)
歯学部 1998 年卒
歯科医
<高倉 久志>

Edy Lynn Santiago (Z-032)
政治学 1998 年卒
弁護士
<渡辺 キヨノ>(高校時)
<寺岡 和治>(大学時)

Josefa De Guzman (B-052)
商業学部 1999 年卒
パンガシナン州ポゾルビオ町登録課長
<織田 智雄>

Carter Lumaang (B-038)
土木工学部 1999 年卒
水路測定官
<平野 由美子>

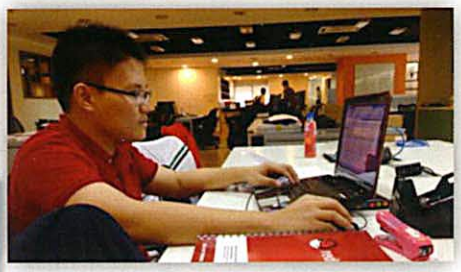
Marietta Hiwatig (PEP-354)
法学部 1999 年卒
法廷弁護士
<北田 美千代>

Zigravillapatria Albarina (PEP-1028)
経営管理学部 2006 年卒
プログラマー
<田辺 鶴一>

Ritche Esponilla (PEP-740)
法学部 1999 年 10 月卒
弁護士
<川原 朋子>(ジャーナリズム学)
<加藤グループ>(法学)

Ginalyn Mantile (K-046)
電子通信学部 2001 年卒
会社課長
<伊藤 哲幹・典子>(高校時)
<加藤 登喜子>(大学時)

Lyka Meriel Dimaculangan (PEP-1113)
会計学部 2009 年卒
会社経理士
<石田 祐宣・智美>



Alexander VincentAguila (S-142)
電子工学部 2013 年卒
会社技術サポート・エンジニア
<宇部教会せみの会>

Seychelle Janine Sabio (PEP-1193)
経営管理学部 2012 年卒
会社会計士
<目黒 美智子>

Johanna Aguila (PEP-1235)
経営学部 2013 年卒
銀行員
<樫山 広士・文江>

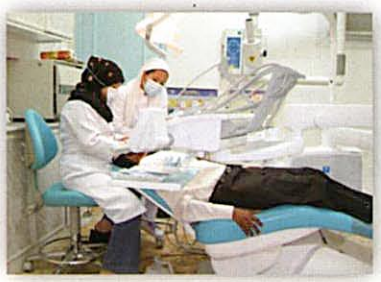
Maria Dyna Nem (FMM-464)
工業薬学部 2009 年卒
薬剤師
<菅佐原 美穂子>

Joyce Venzon (A-059)
観光学部 2008 年卒
ケータリング会社 セールス渉外担当
<西南ゆりの会>

Floreza Robel (K-376)
事務管理学部 2014 年卒
会社職員
<神谷 みつゑ>

Nephil Parel(K-214)
土木工学部 2007 年卒
エンジニア(在韓国)
<藤田 和仁・和子>

Maria Theresa Ayaay (FMM-356)
歯学部 1995 年卒
歯科医師(在サウジアラビア)
<宮崎 瞭>

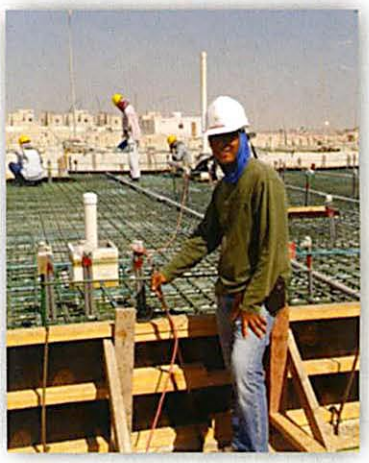


Desiree M. Moral (PEP-899)
工業工学部 1998 年卒
エンジニア(在シンガポール)
<岡田 周治>

Frances Pablo Cantillo (Z-142)
経営会計学部 2000 年卒
会社員(在ブルネイ)
<伊藤 勝雄>

Richelle Salise (H-008)
会計学部 2000 年卒
その後、看護学を修得し、
現在は看護師(在ロンドン)
<高木 俊彦・正子>

Benjamin Manansala,Jr (PH-007)
電子通信工学部 1991 年卒
ウェブ・デザイナー (在ドイツ)
<坂井 富士子>



Aldrine Cortez (U-91)
土木工学部 2008 卒
エンジニア(在サウジアラビア)
<堀内 瑩子>

Ida Mae Nailes (D-36)
電子・通信工学 2000 年卒
ドバイ電気水道局勤務(在ドバイ)
<成田 進>

Christian Aniag (PEP-872)
理学療養学部 2003 年卒
理学療養師(在カルフォルニア)
<上田 正子>

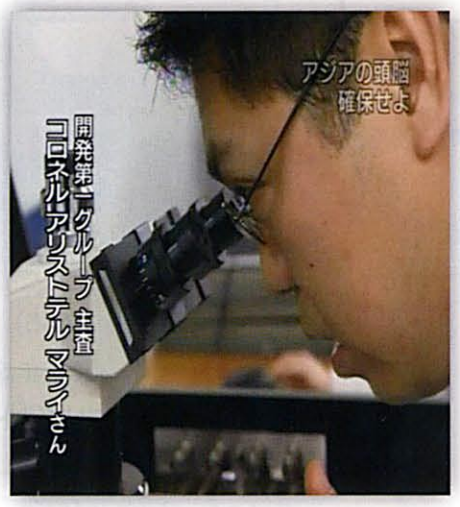
Harold Sententa (Z-076)
医学部 2005 年卒
職業:医師(在オーストラリア)
<雙友会>

KarlAlexande　Vasquez（PH-027）
コンピューター工学部　1991 卒
エンジニア（在カタール）
<佐野　翠>

Marlon De Jesus（MIC-118）
土木工学部　2007 年卒
エンジニア（在シンガポール）
<海老原　守>

Allan Castillo（PEP-991）
医療工学部　2000 年卒
看護師（在カナダ）
<吉岡　実>

Jocelyn Icaro（PEP-483）
工業工学部　1997 年卒
生産部長
＜笛木　美子＞



Aristotle Coronel（PEP-410）
コンピュータ工学　1991 年卒
旭化成開発第一グループ主査（日本在住 23 年）
<斎藤　愛子>

スポンサーの皆さまへ

あなたの時間と愛と思いやり、そしてあなた自身を

私たちにくださってありがとうございました。

私たちも、あなたのように、人を助ける道を選びます。　　卒業生一同

あなたに会えてありがとう

サラマッポ会のあゆみ

小さな出会いから始まったサラマッポ会は、多くの出会いに恵まれ、人と人とのつながりを大切に歩んできました。これまで 33 年の足跡を振り返ってみたいと思います。
「皆が一つになるように」、そして「生きることは愛すること」と、私たちを支え続けてくださった、今は亡き西本神父のメッセージを心に刻みながらー。

はじめの一歩

シスター上田二三は、マニラで貧しくて学校に通えない子どもたちの学費援助をしていました。1980 年、日本の女子大生がシスターを訪ねた折、一日 100 円節約すれば、一人の子どもがハイスクールに通えることを知りました。自分でもできる、この子たちと友だちになりたいと思った彼女は、帰国後すぐに行動を起こしました。周りの人たちによびかけ、賛同する人たちが増えました。
翌 1981 年、シスター上田の FMM グループへの学費援助が始まりました。
1982 年に第一回集会が開かれ、正式に会が発足しました。
「助けさせていただいてありがとう」という気持ちを込めて、**サラマッポ会** と名付けられました。

東京事務局 は 5,6 人のスタッフで手さぐり、手づくりで活動をスタート、会員は 40 名ほどでした。1983 年、NHK の「NC9」でシスター上田の活動が報道され、会員数が一挙に 250 名に増えました。スタッフも増え、活動も少しずつ組織化されました。全国の会員を地域別に分けて、会員係を決め、学生とスポンサーの交流のパイプ役になりました。毎週一回、スタッフが集まり、聖書朗読と祈りから始めて、ミーティングを行ない、役割を分担し、事務作業は各自自宅でというスタイルが 33 年間続いています。1984 年からは、当時群馬大学教授の矢吹貞人が世話人代表となり、前橋から品川に通っていました。

10 年目ごろ

フィリピン側総括責任者には西本至神父があたり、**マニラ事務局** のスタッフが活動を支えました。
2010 年西本神父が帰天されてからは、山本雅子さんが世話人代表となり、その任務にあたっています。
学費支援は FMM グループから始まりましたが、全国各地からの要請で増え、現在では 20 のグループになりました。
各グループには 、 **地域責任者** が決められ、学生の選考と指導監督にあたります。学生たちの勉学状況、生活状況を把握し、きめ細かく指導してくださっています。
サラマッポ会の支援活動は PIC の力によって支えられているのです。

様々な情報や交流の様子を伝えるために、年 2 回の **会報** 「サラマッポありがとう」と、年末には年次報告として、「事務局だより」を発行してきました。会報は 1982 年第1号から 2014 年 5 月 61 号まで発行されています。

毎年秋には、東京で **定例集会** を開催し、活動の報告や、会員のみなさまとの意見交換をします。フィリピン各地からゲストを招き、生の情報を伝え、会員相互の楽しい交流の場となるよう心がけました。

定例集会後には、来日された西本神父や各地の地域責任者 PIC と地方の会員の皆さまを訪ね、**地区集会** を 10 数回開催しました。現地の会員の方々の協力を得て、これまで 大阪、前橋、倉吉、松山、郡山、名古屋、函館、札幌、福岡 で集会を開きました。

サラマッポツアーは

学生たちに会いに行き、肌で文化を感じましょうと呼びかけ、1984 年からサラマッポツアーが始まりました。「フィリピンの笑顔を日本に持ち帰ってほしい」という西本神父の願いは、「貧しくても明るく誇りに満ちた笑顔が忘れられない」という多くの参加者の声を聞くと、叶えられたと感じます。

ツアーは、春夏合わせて 44 回行われました。夏のツアーは、文化の交流とコミュニケーションを深める全国集会。春のツアーは大学を卒業するスカラーたちを祝うことがテーマです。大学入学者数の 25%しか卒業できないと言われるフィリピン。誇らしげな卒業生に心から「おめでとう」を言う機会になっています。

発足以来約 10 年を経た 1993 年、サラマッポ会は **フィリピン大統領賞** を受賞し、マラカニアン宮殿でラモス大統領から、賞状を受けました。

10周年 を記念し、エッセイコンテストを企画し、入選した学生、エンマ・ラボネットとフェ・カランソを日本に招待しました。

その頃から、マニラでは数人のスカラーが集まって、**ニュースレター** を作るようになりました。手書きガリ版刷りでしたが、エッセイやニュースで、お互いを励ましあっている様子が分かりました。その編集員の一人がマルーでした。サラマッポ同窓会の芽生えとも言えるものでした。

「ボランティア活動は 5 年も続けば良いほう」と言われているのに 20 年も続いたのです。

そこで、**20 周年記念誌** 「あなたに会えてありがとう」を発行しました。すべての会員にアンケートや座談会やインタビューを行い、卒業生の近況を報告し、20 年の歩みを詳細に調べ上げ、20 年間の学費総額、6 億 6,220 万円という数字に仰天し、それ以上に、これまでの出会いとつながりを振り返り、感謝する機会になりました。1 年2か月をかけてつくった 92 ページの記念誌には、歩み続けて育った「サラマッポの心」が満載です。

2002年8月、マニラでは20周年を記念して、卒業生有志の企画運営による **サラマッポ会の同窓会** が催されました。中心となったのは、ニュースレターの編集者たちでした。マニラとその近郊に住む卒業生と地方からの代表 270 名、PIC、スポンサー、スタッフ合わせて307名が集まりました。「若者にとって最高の贈り物は教育です。その贈り物をもらった私たちはどんなに幸運でしょうか。今日の同窓会は久しぶりにわが家に戻ったような懐かしさを感じます。」と代表者のスピーチ。集いの司会者はすでにアナウンサーとして活躍していたマルーでした。

未来へ向かって 日本の若い人たちが、スカラーとの出会いを大切に、分かち合いの心を育ててくださっているのは嬉しいことです。

東京都調布市の晃華学園中学校高等学校は、昭和60年（1985年）から現在まで30年間、昼のお弁当を倹約する日を設けて、その募金で毎年18クラスが18名のスカラーのスポンサーになり、サラマッポ会と共に歩んでくださいました。

調布市の晃華学園では、1985年から全校生徒がスポンサーになり、学生を援助していただいています。全18クラスが、フィリピンのもう一人のクラスメイトと心を通わせ、交流を育んでいます。

お互いに、学校のコンテストで優勝したことを喜んだり、台風の心配をしたりしています。

そのほか、岐阜の聖マリア女学院、愛媛の聖カタリナ女学院等、沢山の学校や幼稚園のみなさまがスポンサーになってくださっています。

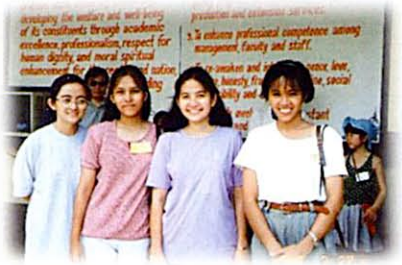
集会の会場を提供してくださっているニコラバレ修道会の雙葉学園の生徒さんたちからは、友だちになる架け橋にと、心のこもった手づくりのカードが送られます。ガールスカウトのみなさまにも、ツアーや日本での集会で、若い力を発揮していただきました。

幕を閉じる方向へ 2009年頃から、私たちが旨としている「心を込めた手づくり」の活動を、このまま続けていくことが、体力と家庭事情などで難しくなり、何度も話し合いを重ねた結果、スタッフの年齢の限界と、西本神父の健康状態を考えて、2015年3月で活動を終了することはやむを得ないと考えるに至りました。

2010年7月、マニラで「サラマッポ会のこれから」について東京・マニラ事務局、PICが集まり、話し合いました。フィリピンサイドには、東京事務局の活動の継続は難しい実情を理解していただき、2015年まで現体制で力を合わせて精一杯の活動を続けようとの認識で一致しました。

終了の準備を始めるとともに、サラマッポ会で育ててきた交わりの実りを日本の若者に触れてもらう機会をつくるために、**スタディーツアー** を始めました。2011年から今年で4回目となり、延べ20名の若者が参加しました。

最後の1年となった今年度も、たくさんのスポンサーから援助のお申し出を頂きました。それに呼応するかのように、マニラでは政府の援助が打ち切られ、あと1年の学費に苦慮している学生たちがいることが分かり、新しい16名もの大学生たちが救われました。



サラマッポファミリーの卒業生たちは、フィリピン国内で、また世界のどこかで活躍しています。サラマッポ精神を身に着けた同窓生たちが、「今度は自分たちの番」と、恵まれない学生に手を差し伸べようとする動きが始まっています。

サラマッポ会のスカラー	(4560 名)
そのうち　大学卒業生	(約 2932 名)
日本のスポンサー	(2500 名)
PIC	(85 名)
マニラ・東京スタッフ	(49 名)
学費送金総額	(960,271,000 円)

これまで、たくさんの方々に活動を支えていただきました。

出会いとつながりの連続で、大きな笑顔の輪ができました。

神さま、ありがとう、　サラマッポ！

最後の集会にあたって、出席者のみなさま、ご意見、ご感想をお聞かせください

各学年が一人のスカラーと交流するよう毎年６人のスカラーを援助させていただいています。先輩たちから受け継がれて来たこの交流が、これで終わると思うと大変残念です。　雙葉学園　Ｋさん

豊かな日本に住む私が、幾らかのお金をサラマッポ会に託さなければ、自分の娯楽のために使っていたかもしれないのに、生きたお金にしていただいて、感謝しています。　Ａさん

1993年から，母校の同窓会として参加させていただいております。みんなが少しずつ集めたお金を、この様に有効に使っていただき、本当に有難く、私たちの誇りとも思っています。同窓会員3万5000人を代表して、感謝申し上げます。

西南ゆりの会　Ｆさん

雙葉学園の廊下に貼ってあったフィリピンのスカラーからの手紙を見て、娘と同じような子どもたちを学校に行かせてあげられたらという思いで、毎年スカラー２名のスポンサーをさせていただきました。どのスカラーも、いつも私と家族のために祈ってくださいました。私は助けたとは思っておりません。フィリピンの子どもたちから幸せを頂いたと思っています。

Ｏさん

中高生を中心に交流を持ち、フィリピンに行く機会もいただいて、沢山の学びをいただきました。それを糧にして勉強に励み、団員の中には、看護師になったもの、現地に住むようになったものもおります。私たちの生きていく方向に味を添えていただき、感謝しています。　茨城ガールスカウト 10

サラマッポツアーに何回か参加し、フィリピンに行くたび、とても心が温かくなりました。また、定例集会に参加すると、清々しく、心が清められる思いで帰ります。スタッフの仕事、手紙の翻訳、などなど、こんなに真面目なグループは他にないのではないかと思います。これからもなんらかの形で、フィリピンと関わっていきたいと思います。長い間ご苦労様でした。　Ｉさん

自分がしたことよりも、スカラーから与えられたものの方が、はるかに多かった。実りがある。宝がある。これから一日でも長く生きて、サラマッポの残照を味わっていきたい。

感謝！

Ｎさん

教会の神父様を通してサラマッポ会を知り、スタディーツアーに参加させていただきました。
フィリピンの学生は、心が温かく、明るく、向学心に燃えていました。この様な体験のチャンスをいただき、感謝するとともに、これからも何らかの形で、関わっていきたいと思います。　Ｔさん

社会が、弱い人、苦しんでいる人たちを取り囲むように、抱き合うように

レデンプトール修道会東京準管区長　瀬戸高志神父のことばから

今日、皆さん一人一人の言葉には、感謝、ありがとう、して頂いてありがとう、させて頂いてありがとうという言葉があります。ありがとうの集まりです。それは過去に対してだけではなく、駆け抜けて、これから新しい風が吹き始める、そのようなものに対してでもあると信じ、祈りたいと思います。

今日のミサで読まれる聖書の箇所は、有名な「皇帝のものは、皇帝に返し、神のものは神に返せ」というイエスの言葉です。地上のことは地上のこと、イエスは、自らの生き方を示し、自分がこの世に遣わされたのは、地上の人々を神に返すためなのだと言われました。

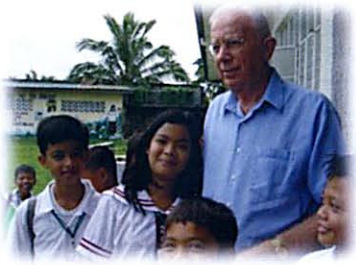
サラマッポ会の送金総額約９億というお金は、皇帝に返したのではなく、実は神さまのものとして使われたのだと考えると、皆さんがやり取りしてきたものは、確かに、神さまによって良いものになったと思えます。

フランシスコ教皇は、私たちのこの経済社会が、本当に弱い人、苦しんでいる人たちを取り囲むように、抱きあうようにと、世界に呼びかけます。そういう社会こそ、今、教会が目指し求めているものなのです。

西本神父が神さまの思いを受け取って、それを実現出来たのは、皆さまが一緒にいてくださったからです

すでに天に召された方、全ての善意の人たちに、神さまが祝福を与えてくださるよう心から祈りたいと思います。

学生たちを温かく見守り、時には厳しく指導してくださったPIC（地区監督責任者）の方たち



33 年間に約 85 人の神父、先生、シスター方が引き受けてくださいました。

事務局スタッフのことば

ある年、地方の教会での地区集会が決まりました。東京と違って、交通網の発達していない地方での集会、東京のスタッフは机上だけで考えての場所選びは・・・と神父様にお叱りを受けながら、PIC のシスターをお連れして向かいました。
ああ遠いところにお連れしてしまったなあ、と心は沈んでいましたが、教会までの車中、シスターはサトイモ畑の風景を、「フィリピンと同じ！」と感激していただき、心に少し明かりがともった思いでした。現地の神父様はじめ、教会の方々の温かいおもてなしに、無事集会を終わることが出来ました。閉会を迎え、未熟でしたが無事にやってこられたのもスポンサーや仲間のおかげです。感謝のうちに。（本堂）

サラマッポ会東京事務局のスタッフに誘われて、30 年ほど。沢山の得難い経験をいたしました。スタッフの仕事を通して、世界を見る機会を得、実際に生きた歴史を学ぶチャンスを得たことは貴重でした。

★スタッフとして初めてツアーに同行した時のことです。学生たちの指導者 PIC のお一人のご挨拶は、長く私の心に刻まれました。
「私はこの戦争の終盤に、日本に新型爆弾（原子爆弾）が落とされ、多くの人々が犠牲になったと知らされた時、飛び上がって、手を叩いて、喜んだ一人です。今こうやって日本の皆様と同じテーブルで、食事をするようになるとは夢にも思っていませんでした。時を経て、神様がこのような機会を私に与えて下さったことに心から感謝いたします。」。
それに応えたスポンサーのことば…
「私が今ここにいるのは、敵国である日本人を助け、日本に帰国できるように力を貸してくれた、フィリピンの人がいたからです。スポンサーを続けることは、日本の犯した罪の償いのつもりです。」

★8 年間援助した学生が卒業したあと、何年かして、スポンサーのNさんから事務局に手紙が届きました。「神さまに会うときに、お土産がないことに気がつきました。もう一人援助してお土産としたい」と。その時は社員寮に住み込みで賄い婦として働いておられるとのことでした。お蔭さまで、この学生も無事卒業しました。今Nさんは、どうしておられるでしょう。用意したお土産を大切に、きっと、元気にお暮らしのことと思います。

フィリピンで、日本で、サラマッポ会の活動を助けてくださった多くのみなさま、
困難に出会ったとき、「いいやんか　なるようになるさ、大丈夫、心配ないさ・・・」と、励ましてくださった、そして今でも天国の事務局で見守ってくださる西本神父、本当にありがとうございました。（若林）

フィリピンにほとんど興味のなかった私が、不思議な声に誘われ、東京事務局のスタッフを始めてから25年が経ちました。何度かのフィリピン訪問での様々な体験の中で、私の心に残ることが三つありました。
一つは、物質的には恵まれた日本人より、貧しくとも愛する家族と肩を寄せ合い生活しているフィリピンの人々の方が、幸せ度が高いと気づいたこと。二つ目は、持てるものが、持たざる者を助けるバヤニハン(Bayanihan)の精神—例えば引っ越しの時、ニッパ椰子の葉で作られた家を、村中の人々が力を合わせて運ぶ「助け合いの精神」を肌で感じ取ったこと。三つ目は、Kグループの指導者ケリー氏が学生に言われたことば「あなたの受けた恩を卒業後は"Pass it on"、今度は必要としている他の青少年に分け与えなさい」
サラマッポ会の活動に携わるうち、この印象的な3つの事柄が、フィリピンに対する私の心を豊かにしてくれました。(小糸)

私は、サラマッポ会の最後の6年間をお手伝いしただけですが、スポンサーとスカラーの絆には、私の担当の方からのお手紙や、スタッフミーティングの内容から、いつも感動していました。言葉では世界平和を祈っていても、具体的にどうすればよいのか、私はわからないでいたと思います。今は、違った国、違った文化の人と個人的な絆を築くことによって、それを深めることでお互い共感することができ、それを拡げることによって、世界平和に繋がっていくのだということを、サラマッポの活動を通して教えていただいたと思っています。サラマッポ会に携わった全ての方に感謝を込めて。(相良)

これまで 20 年程でしたが、サラマッポ会の活動の終りまで関わることができて、とても光栄に感じています。最初は、スカラーとスポンサーとの手紙のやりとりに随分手間取りました。学生の手書きの文字に慣れず、辞書を片手に直訳し、読み返しても意味が通じなかったり、思わず吹き出すような文になってしまったこともありました。そんな和訳の手紙を受け取られた方には、さぞ困惑されたことと思います。でも手紙は、心の交流には大切な手段であり、今後もスポンサーの方は、印象深く思い出してくださることでしょう。
学生達の屈託のない笑顔を思い浮かべながら、これからもフィリピンとの関わりを、細く長く続けていきたいと願っています。(長澤)

思いやりの心から行動を起こすことが、出会いと繋がりに支えられ、ありがとうの絆となって、続いていることをつくづく実感します。
最後の定例集会に卒業生が参加して、スポンサーと涙の体面をしました。ハイスクールの時からマスコミュニケーション志望だった彼女は、堂々たるアナウンサーになっていて、感謝とこれからの決意を熱く語りました。一人一人によって蒔かれた種は、確かな実を結ばせています。そして彼らは、次は自分たちの出番と、出会いの道はこれからも続いていくと、信じているのです。(本田)

Kさんの支援で医学部を卒業し、立派な整形外科医になったD君、学会に招かれて来日することになりました。マニラの国立病院に勤務する一方、自分のクリニックも持って、地域の人々の診療に当たっているそうです。Kさんに直接会って感謝を述べたいというD君の夢は叶って、双方、本当に嬉しそうでした。
でも、D君のように幸運な学生はまれです。フィリピンには、まだ高等教育を受けられない若者が沢山います。運よくスカラシップを受けられても、家庭の事情や、健康を害したこと等で、中途退学しなければならない学生のケースも目にしてきました。夢を果たせなかった彼らは、どんなに無念だったでしょう。

私たちは、もうすぐこの会を閉じますが、そんな学生たちに寄せる心だけは持ち続けていたい、どうか夢を捨てないで、希望を持って人生を歩み続けてほしい。彼らを見捨てず、チャンスを与えてくださいと神に祈りたいと思います。ただ心をこめて祈ること、それが、私たちに残された仕事だと感じています。（榎並）

サラマッポ会と出会ったのは、ガールスカウトのリーダーの研修会での矢吹代表の講演会でした。平成元年、茨城、日立のガールスカウトの4つの団体が入会し、2人ずつのスカラーとの交流が始まりました。第 10 団と 15 団が最後まで残りました。スカウトたちは、サラマッポツアーやサバイバルツアーに参加し、楽しく、大切な思い出を作りました。

東京に戻って以来 25 年、スタッフとして、北海道、千葉、茨城、栃木の地域を担当しました。会員の皆さまと親しくしていただいたことは、私の一生の宝です。スカラーたちの手紙を翻訳する中で、彼らの真面目で、家族や親族へのやさしい思いやりに、心打たれました。いつも神さまを第一に、次にスポンサーへの感謝、将来の夢を抱いて頑張っている姿には、私たちも励まされました。
閉会は、寂しいことながら、彼らへのエールを送り続けていきたいと思います。（荒井）

2010 年の祝卒業ツアーより、スポンサーからスタッフへと立場が変わり、5 年間関わらせていただきました。まず感じたことは、なんと真面目で誠実なボランティアの集まりであるかでした。スタッフたちは、何のため、誰のため、何をすべきか、絶えず自問しながら 30 余年続けていました。私も、学生とスポンサーの間が、円滑に流れるようにとの思いで、会員係の仕事をするうち、豊かな人も、豊かでない人も、向学心に燃えた貧しい若者に、自分のことはさて置いて、それに差し出し、そのこと自体に喜び、感謝をしているスポンサーの姿に、襟を正す思いの日々を過ごしました。

瀬戸神父様の講話が思い起こされます。「スタートはどのような理由でも良い。選び取り、歩き、走り続けているうちに、自分自身が豊かな思い、楽しい思いで、次第に喜びに変わっていくならば、それは神さまがともにいてくださる、つまり、神さまの思いの道を歩んでいることになる。」
サラマッポ会に関わらせていただいたおかげで、それを体験することができました。
いつの日か、また、喜びをご一緒にできますように。（吉池）

「4543 番」これがサラマッポ会の最後の奨学生につけた通し番号です。私たちはフィリピンから日本に届いたアプリケーション（申請書）に、学生が住む地域を表すグループ番号とは別に「通し番号」を付けてきました。ですからこの数字はサラマッポ会がこれだけの数のフィリピンの若者を受け入れたということを表しています。

私は過去 33 年間、サラマッポ会東京事務局でフィリピン側の情報や資料を受け取る交流係という仕事をしてきました。申請書であるアプリケーションには学生一人ひとりの顔写真、住所、家族、学校名、指導者 PIC 名、推薦者名、そして奨学金を受けたいという理由などが書かれています。これは私にとってその奨学生を知る唯一の情報源です。ふつうの主婦でフィリピンのことも良く知らずにボランティアを始めた私には、この紙一枚一枚が、いわば教科書のようなものでした。そこから若者一人ひとりのバックグラウンドが垣間見え、夢が始まろうとする・・・ということがわかるのです。この大事な資料を読み取りつつ、振り返ってみると、4543 名の若者たちが、「君たちの夢の手伝いをしよう」と申し出た日本のスポンサーの方々と出会い、育ち、独り立ちして行ったというすごい出来事の連続だったのです。

このすごい出来事の**プロデューサー**（？）である神様、そしてここに関わってくださったすべてのみなさまのおかげで、たくさんのドラマを、33 年もの間、観劇（感激）させていただいたような気がします。愉しい日々をありがとうございました。（長冨）

「ちょっと席をゆずって、ほら！　みんながちょっと席を詰めれば一人座れるでしょう。サラマッポ会はそんな感じかな。」（斉藤神父）「助けているつもりがほら！自分が助けられているんだよ。」（西本神父）
メモ紙、手書き　手探り、電卓、電話・・・懐かしい響きです、30 年前。今はパソコンを駆使して（？）世間並。ずーっと、崩さない「サラマッポ―ありがとう」「あなたに会えてありがとう」の心入れ。1 年 1 年、一人ひとり、丁寧に丁寧に続けてきた日本のスポンサーとフィリピンの学生たちとの交流。サラマッポ会の輪は、想像もつかないほど大きく広がって、その輪の中にいたことを神様に感謝せずにはいられません。（太田）

事務局は 2015 年 3 月 31 日で閉じられます。

東京事務局スタッフ：矢吹貞人（世話人代表）
荒井淑子、榎並瑛子、太田雅子、亀山國彦、
小糸順子、相良映子、長澤徳子、長冨由紀子、
本田由紀子、本堂喜美、吉池和子、若林美恵子

サラマッポ会事務局発行
〒108-0074　東京都港区高輪 4-7-1
電話　03-3441-4040（直通）
郵便振替　00140-4-33419
http://www.salamatpo-kai.com/
info@salamatpo-kai.com

800 部